

---

# 日本国民全超能力者化計画

特務大尉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

日本国民全超能力者化計画

### 【Nコード】

N5113S

### 【作者名】

特務大尉

### 【あらすじ】

日本は軍事力の拡大の為、極秘で開発していたESP（超能力）を国民全員に装備させる事に！！

がしかし、俺は普通じゃなかった！ 敵も味方も超能力者！！  
しかも、その能力はピンからキリまで！

時々ギャグを交えつつ、シリアスもちょい目指して！  
独学だから、クセがある文章ではある！！

## プロローグ

暗い部屋でモニターの光だけが輝いている。

テーブルは円形に並んでいるが、その全てが埋まっているわけではなかった…。

が。そこにはいく人もの人影がある。

「では、国民全員に配布するという事で」

「表向きはそれでいいだろう」

「数の方は足りているのですか？」

「規定数を守っています」

「それならいい。ところで、例の試作品は？」

「開発には成功しましたが、使用可能者が不在でありまして……」

「開発に成功しているのであれば善処する」

「もうここまで来た。戻る事は出来ない……な……」

男が1人立ち上がった。

会議は終了するが、人影は移動しない。

光は反射し、窓枠が影をつくっていた。

窓の外の摩天楼の隙間からは目を刺すような赤い夕日が輝いている。

赤く。紅く。アカク。

そう。

太陽が世界を血みどろに変え。

闇が全てを包むのに、そう時間はかからないだろう。

## 始まりの朝 1 / 4

頼んでもいないのに日は昇る。

まあ、頼んでも頼まなくても日は昇るわけだが。

「む、もう朝かよ……」

どうも昨日は寝落ちしてしまっただらしい。

頬に付いたキーボードの跡をさすりつつ、口からはみ出たよだれを拭う。

プレイヤー1は永遠に画面の中で肉を焼いていた。もちろんネットゲームだ。

毎日定刻に鳴き騒ぐ目覚まし時計をベットの頭に投げ飛ばし、机の上から携帯電話をたぐり寄せる。

「学校で充電出来るか……？」

バッテリーは3分の1を切っていた。

全身鏡の前でハネた寝癖をワックスでごまかし、目薬さして、伸びびをする。

ゴリゴリと背骨が鳴った。

「たまには自分で起きるかな……」

俺の名前は古矢<sup>フルヤ</sup>海流<sup>カイル</sup>。

17歳の高校生。特技なし！ 趣味なし！ 好きなタイプは黒髪ロングのおしとやか！

……「現実見る」だ？

夢見るぐらい許してくれ。

## 始まりの朝 2 / 4

「兄さん自分で起きたの!？」

リビングのドアを開けると我が自慢の妹が台所でフライパンを巧みに操っていた。

妹の美波<sup>ミハ</sup>。16歳。

美人でモテるが、俺に妹属性は存在しない。

「時には博多だつて砂糖を作りたくなるんだよ」

「そーおですかあ」

妹は若干機嫌がいいようだ。

「じゃ、朝ごはん。食べてってねえー」

と、美波は先に学校に出かける。

「な…ん…だと!？」

俺は朝ごはんは食べない派であり、食べられない派なのだ。



まあ、単なるワガママなのだが。

いつも朝メシを抜いていたら癖になってしまった。

が、美波は毎日の朝食を俺の分まで作る。いつもは学校が終わってから食べるのだが…。

「わかったよ……」

リンゴとバナナを口に押し込み、パンは犬にやる。

朝のパンは口がパサつくから嫌いだ。

歯を磨いた後、筆箱と弁当だけをカバンに詰めて学校に行く。

そしていつものように、

「行ってきますっ」と

リビングに向かって一声かけて、ドアを閉める。

まあ、家には誰もいないのだが。

そう、この家に両親と名の付く生物は何故が存在しない。

……言つてて自分でも意味が分からないが。

詰まる所、普通じゃない家庭つて事。

吹っ飛びすぎた家庭事情についてはまたいずれお話しよう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5113s/>

---

日本国民全超能力者化計画

2011年10月9日00時26分発行